

私の立場

無学求道作成「お釈迦さんが変わった方法」より

神秘体験の体験者

神秘体験の体験者として釈尊の悟りと坐禅について考えたいと思います。以下「」したものは釈尊の「神秘体験」として阿含経（あごんぎょう）にも書かれています。

私は1972年から1973年にかけて見性体験、「明けの明星」を体験しました。その後悟りから出てしまいました。

今回は2002年2月以来。見性体験、「明けの明星」、身心脱落＝「解脱」、只管打坐、2011年1月の「涅槃（ニルバーナ）」とつづけて体験してきました。

これらの体験にはそれらにふさわしい「境地」の変化が伴います。

体験したものにしか分からないのですが、効果は体験者に共通しているようです。

このことから私は「神秘体験」を宗教家についての真偽の判定基準にしています。特に仏教者については「神秘体験のあるなし」を真偽の決め手にしています。いうならば本当に「慈悲の心」を持っているかどうか分かるような気がするのです。

お釈迦さんの教えであるお経は苦手です。

私は神秘体験を積み重ねてして、精神的に成長してきました。

しかしどういいうわけか、釈尊の神秘体験は理解できるものの、悟った後で説かれた「お経のなかの哲学や真理の説明」がよく理解できません。阿含経はマダよいとして、その他のお経はさっぱり分からな内容を含んでいます。全てではありませんが、仏教作家が想像たくましく作り上げた物語だったりするからです。

ダルマ禅の立場

私が坐禅を始めた頃の入門書では、教えを説き始める前の「釈尊の心」をつかまえばよい、と書かれていました。いうならば悟った後は、時代や地域に応じた「働き」ができるという事だと考えました。

今の私は2011年1月「涅槃」の体験ができたところです。本当の意味での「働き」には、これから2、3年かかるのではないかと考えています。